

なぜこのようなテーマに設定したかという点と相沢の行動には理解しがたいことが多いからである。例えば相沢と豊太郎が昼食をともにしてエリスの話をした時、明らかに豊太郎の心の弱さが悪いのに相沢はまったく豊太郎のことを責めなかったことや、エリスに豊太郎が帰ることを伝えた理由などである。そのなかでこの「なぜ相沢はエリスに豊太郎が帰ることを伝えたのか」について考えを深めることにした。

このテーマに対し自分が考えだした結論は「豊太郎が一時の感情に流され、道を踏み外そうとしているのを止めるため」である。

このことについて人物像からかんがえてゆく。まず、豊太郎。豊太郎という人物は本文の263ページの「我と我が心さへ変はりやすきをも悟り得たり」や269ページの「外物を捨てて顧みぬほどの勇氣ありしにあらず」から判断すると心変わりの激しい、勇氣のあまり感じられない人間とよみとれる。一方相沢は280ページの豊太郎との会話から判断すると友達思いのいい人間、また同じようなことが豊太郎を新聞社の通信員としたことから読み取れる。また相沢の人生が順調なことから一時の感情に流されることもない人間とよみとれる。

ここで豊太郎が直面している状態についてがんがえる。豊太郎はエリスと出会い、そして関係を深めていく中にありながら相沢の日本に帰るかという質問に対しよくも考えず返事をし、そのことについて後悔していた。また、以前豊太郎は人からの信用をうしなっており、今回のエリスとのことがばれてしまえばさらに信用を失う事になるのでばらせるわけにはいかなかった。そして何より豊太郎にはエリスと離れたくないという強い気持ちがあった。

以上のことから考えて相沢は、豊太郎はもしかしたらまだ日本に帰ることをエリスに伝えていないのではないかと考えたと考えられる。よって友達思いである相沢は豊太郎のかわりにエリスに豊太郎が日本に帰ることを伝えたと考える。

しかしこのテーマについてはまだまだ不可解なことがたくさんある。例えば豊太郎に自分で伝えさせたほうが豊太郎自身のためになると相沢は考えなかったのだろうか、相沢の日本に帰るかという質問に対し即答していたし、本文の294ページの「滞留のあまりに久しければ、さまざまの係累もやあらんと、相沢に問いしに、さることなしと聞きて、落ちいたりともたまふ」などから判断できるよう相沢は、豊太郎はもしかしたらまだ日本に帰ることをエリスに伝えていないのではないかということはまったくうたがっていなかったともとれる。

結論は「豊太郎が一時の感情に流され、道を踏み外そうとしているのを止めるため」としたがほかにもいろいろな考え方があると思うのでこの論以外でかんがえていくのも面白いと思う。